

## 第4回 県有施設・県出資団体等調査特別委員会資料

### 出資団体等所有施設について ～個別施設の現状と課題、その対応方針～

鹿島臨海鉄道株式会社（政策企画部）

令和5年11月8日（水）

○施設名 大洗駅ほか13駅【所有団体：鹿島臨海鉄道（株）】

1 現状

(1) 施設の概要

- 日本鉄道建設公団が建設していた国鉄鹿島線（水戸駅～北鹿島駅間）を、国鉄（現JR東日本）に代わって鹿島臨海鉄道（株）が経営することになり、昭和60年3月から、大洗鹿島線として旅客営業を開始した。
- 大洗駅ほか13駅（※）は、大洗鹿島線の水戸駅から鹿島サッカースタジアム駅間の53.0kmの旅客営業のために必要な駅設備であり、地域の公共交通機関として、沿線住民の通勤・通学や、観光客などの移動手段として利用されている。  
※13駅：水戸駅（JRと共同使用）、東水戸駅、常澄駅、涸沼駅、鹿島旭駅、徳宿駅、新鉾田駅、北浦湖畔駅、大洋駅、鹿島灘駅、鹿島大野駅、長者ヶ浜潮騒はまなす公園前駅、荒野台駅  
（鹿島サッカースタジアム駅は、JR所有）
- なお、鹿島臨海鉄道（株）の保有する施設として、旅客営業を行う大洗鹿島線（大洗駅ほか13駅）のほか、企業向けに貨物輸送を行うための鹿島臨港線がある。

(参考1) 大洗鹿島線の概要

区間	水戸～鹿島サッカースタジアム
鉄道事業免許取得年月日	昭和59年9月11日
運輸開始年月日	昭和60年3月14日
営業の種類	旅客
営業キロ	53.0km（単線）
ホーム有効長	150m（水戸駅）、140m（大洗駅）、104.4m（涸沼駅）、102.4m（常澄駅）、102m（新鉾田駅）、100m（上記以外の駅）
運賃	別表のとおり

(参考2) 鹿島臨港線の概要

区 間	鹿島サッカースタジアム～神栖～奥野谷浜
鉄道事業免許取得年月日	昭和44年7月21日
運輸開始年月日	昭和45年11月12日
営業の種類	貨物
営業キロ	19.2km (単線)

(参考3) 鹿島臨海鉄道株式会社の概要

設 立	昭和44年4月1日
代 表 者	代表取締役社長 篠部武嗣 (非常勤)
所 在 地	東茨城郡大洗町桜道301
資 本 金	1,226,000千円
株 主	22団体 (公共団体: 1団体、法人等: 21団体) ※公共団体出資比率29.5% (県: 362百万円(29.5%))
事 業 内 容	旅客事業 (大洗鹿島線) 貨物事業 (鹿島臨港線) JR東日本に係わる業務の受託 清涼飲料水及び酒類、たばこ、加工食品並びに雑貨類の販売 上記に付帯し、または関連する事業 (駐車場、広告等)
役 員 数 ※	20人 (内訳) 取締役17人 (常勤5人、非常勤12人)、監査役3人 (常勤1人、非常勤2人)
従 業 員 数 ※	93人 (正社員81人、嘱託職員4人、臨時職員8人)

※役員数及び従業員数については、令和5年7月1日現在の人数。

(別表) 大洗鹿島線の普通旅客運賃

令和元年10月1日改定 **大洗鹿島線普通旅客運賃表**

大人	1,590	1,400	1,340	1,290	1,240	1,160	1,040	920	820	710	610	470	330	240	220	水戸
小児	790	700	670	650	620	580	520	460	410	360	310	240	170	120	110	
大人	1,500	1,310	1,240	1,180	1,140	1,060	960	850	740	610	500	400	220	220	東水戸	
小児	750	660	620	590	570	530	480	430	370	310	250	200	110	110		
大人	1,370	1,180	1,110	1,090	1,020	920	820	710	610	500	400	260	220	常澄		
小児	680	590	560	550	510	460	410	360	310	250	200	130	110			
大人	1,300	1,110	1,040	990	920	850	740	640	520	420	330	220	大洗			
小児	650	560	520	500	460	430	370	320	260	210	170	110				
大人	1,110	920	870	820	770	690	560	450	350	240	220	涸沼				
小児	550	460	440	410	390	350	280	230	180	120	110					
大人	1,010	820	740	690	640	560	450	350	240	220	鹿島旭					
小児	500	410	370	350	320	280	230	180	120	110						
大人	900	710	640	590	520	450	350	240	220	徳宿						
小児	450	360	320	300	260	230	180	120	110							
大人	780	590	520	470	420	350	220	220	新鉾田							
小児	390	300	260	240	210	180	110	110								
大人	690	500	420	370	330	240	220	北浦湖畔								
小児	340	250	210	190	170	120	110									
大人	560	370	330	260	220	220	大洋									
小児	280	190	170	130	110	110										
大人	450	260	220	220	180	鹿島灘										
小児	220	130	110	110	90											
大人	410	220	220	180	鹿島大野											
小児	200	110	110	90												
大人	410	220	180	※はまなす	公園前											
小児	200	110	90	公園前												
大人	370	180	荒野台													
小児	180	90														
大人	190	※鹿島														
小児	90	スタジアム	※鹿島スタジアム・・・鹿島サッカースタジアム													
鹿島神宮																

凡例  

上段	大人運賃
下段	小児運賃

**(2) 施設の利用状況**

- 大洗鹿島線の利用者数は、平成4年度の3,588千人(定期2,028千人、定期外1,560千人)をピークに、少子高齢化や沿線人口の減少などにより逡減傾向。
- 令和4年度利用者数は、通勤が250千人(対前年比100.8%)、通学808千人(対前年比102.3%)、定期外662千人(対前年比124.2%)になったことにより、旅客輸送量は1,720千人(対前年比109.5%)に増加となったが、新型コロナウイルスの影響が少なかった令和元年度と比較すると83.9%の回復に留まっている。
- なお、鹿島臨港線における貨物輸送量については、近年250千トン以上で推移している。

**(参考4) 旅客輸送量の推移**

(単位：千人)

年度	H26	H27	H28	H29	H30	R 1	R 2	R 3	R 4
利用者数	2,109	2,104	2,185	2,119	2,113	2,050	1,497	1,571	1,720
定期券	1,321	1,292	1,321	1,284	1,282	1,262	1,006	1,038	1,058
うち通勤	284	269	267	261	265	285	250	248	250
うち通学	1,037	1,023	1,054	1,023	1,017	977	756	790	808
定期外	788	812	864	835	831	788	491	533	662

**(参考5) 貨物輸送量の推移**

(単位：千トン)

年度	H26	H27	H28	H29	H30	R 1	R 2	R 3	R 4
貨物輸送量	278	279	281	276	268	276	253	270	253

### (3) 経営状況

- 中期経営計画（令和元年度～令和5年度）に基づき旅客事業及び貨物事業を実施しているが、特に旅客事業については赤字が続いており、イベントに合わせた臨時列車の運行など収支改善に努めているところである。

#### (旅客事業)

- 令和4年度の旅客収入は、利用者が回復してきていることから、507百万円（対前年度比112.8%）となっている。
- 一方で、原油価格の高騰に伴う動力費の増加や、電気代の値上がりによる水道光熱費の増加などの影響を受け、経常収支については142百万円の赤字となった。
- 沿線人口の減少やアフターコロナにおけるテレワークの定着といったライフスタイルの変化など、今後も厳しい経営環境が続く見通しである。また、開業から間もなく40年を迎えるが、安全輸送を継続していくため、国、県、沿線市町の支援も受けながら、老朽化した施設の修繕や更新を実施している。

#### (貨物事業)

- 令和4年度の貨物収入は、半導体不足による自動車関連の荷動きの低下などにより前年を下回り、331百万円（対前年度比95.4%）となっており、経常収支については75百万円の黒字となった。
- 貨物事業については継続して黒字であり、物流業界における「2024年問題」を背景として、企業のモーダルシフトが今後一層進むと見込まれることから、新規荷主の獲得など収益拡大に努めているところである。

#### (事業全体)

- 令和4年度の旅客事業と貨物事業を合わせた経常収支については、貨物事業の収益により旅客事業の赤字を圧縮し、67百万円の赤字となった。

(参考6) 旅客事業の収支の推移

(単位：千円)

年度		H26	H27	H28	H29	H30	R 1	R 2	R 3	R 4
収入	旅客収入	615,746	618,553	642,076	631,333	629,868	605,206	419,854	449,187	506,669
	その他	180,365	177,625	194,952	184,173	175,803	164,847	121,417	113,135	116,462
	収入計①	796,111	796,178	837,028	815,506	805,671	770,053	541,271	562,322	623,131
支出	人件費	513,284	490,421	526,428	493,884	487,728	458,283	426,455	418,094	438,344
	維持管理費	113,913	88,898	79,795	68,596	102,095	95,675	81,174	74,808	90,687
	その他	248,485	245,298	276,750	317,491	312,226	293,873	240,868	237,981	245,890
	支出計②	875,682	824,617	882,973	879,971	902,049	847,831	748,497	730,883	774,921
営業収支③ (①－②)		△79,571	△28,439	△45,945	△64,465	△96,378	△77,778	△207,226	△168,561	△151,790
営業外収入④		20,845	21,159	16,326	16,088	16,712	10,368	11,413	11,668	10,785
営業外支出⑤		1,316	1,223	1,216	122	1,108	972	938	875	842
経常収支⑥ (③＋④－⑤)		△60,042	△8,503	△30,835	△48,499	△80,774	△68,382	△196,751	△157,768	△141,847

(参考7) 貨物事業の収支の推移

(単位：千円)

年度	H26	H27	H28	H29	H30	R 1	R 2	R 3	R 4
営業収入⑦	351,346	350,794	337,994	335,147	336,762	359,425	330,860	347,218	331,240
営業支出⑧	300,656	325,474	312,436	295,921	257,552	322,771	257,012	270,669	261,838
営業収支⑨ (⑦－⑧)	50,690	25,320	25,558	39,226	79,210	36,654	73,848	76,549	69,402
営業外収入⑩	8,933	9,068	6,349	6,571	6,826	4,658	6,703	7,151	5,556
営業外支出⑪	462	476	427	373	313	359	313	307	281
経常収支⑫ (⑨＋⑩－⑪)	59,161	33,912	31,480	45,424	85,723	40,953	80,238	83,393	74,677

(参考8) 旅客事業及び貨物事業の収支の推移

(単位：千円)

年度	H26	H27	H28	H29	H30	R 1	R 2	R 3	R 4
旅客事業 経常収支⑥	△60,042	△8,503	△30,835	△49,499	△80,774	△68,382	△196,751	△157,768	△141,847
貨物事業 経常収支⑫	59,161	33,912	31,480	45,424	85,723	40,953	80,238	83,393	74,677
経常収支 (⑥＋⑫)	△881	25,409	645	△4,075	4,949	△27,429	△116,513	△74,375	△67,170



(参考 9) 大洗鹿島線における車両や鉄道施設の維持・修繕費用と県補助金の推移

(単位：千円)

年度	H26	H27	H28	H29	H30	R 1	R 2	R 3	R 4
事業費	89,574	111,409	61,279	181,257	184,606	166,591	173,466	4,934	33,332
うち県補助金	19,767	18,568	10,213	30,209	30,768	27,765	28,911	822	5,164
主な事業内容	法面工事、 車両検査・ 修繕	トンネル 漏水対策、 車両検査・ 修繕	高架橋剥 落対策、 車両検査・ 修繕	車両検査・ 更新	車両検査・ 更新	車両検査・ 更新	車両検査・ 更新	車両検査・ 修繕	車両検査・ 修繕

※県補助金については、国が 1/3、沿線市町が 1/6 助成しているのに合わせ、県においても 1/6 以内（平成 26 年度は 1/3 以内）で助成。

(参考 10) その他の県補助金等

○補助金

令和 2 年度：運行継続協力金 38,010 千円

豪雨災害に係る被災箇所復旧工事に係る工事費支援 7,933 千円（国・沿線市町との協調補助）

鉄道・バス利用環境整備費用助成金 200 千円

令和 4 年度：交通事業者原油価格高騰対策緊急支援金 2,840 千円

○一時金

令和 3 年度：茨城県営業時間短縮要請等関連事業者支援一時金 5,000 千円

#### (4) 周辺エリアの動向、他県の類似施設の状況

- 令和4年度については、新型コロナウイルス感染症の影響による沿線学校の休校や海水浴場の閉鎖などが行われなかったほか、外出自粛の緩和により、水戸市など沿線市町の花火大会、大洗町の海楽フェスタやあんこう祭りなどの各種イベントが開催され、コロナ禍前の日常が戻りつつある状況。
- 全国的に、人口減少やテレワークの定着など、鉄道利用者数はコロナ禍前の約8割の回復に留まっている。
- 全国の第三セクター鉄道が加盟する第三セクター鉄道等協議会がまとめた、令和4年度の輸送実績と経営成績では、各鉄道会社では輸送量については回復傾向にあるものの、経営成績では、会員40社のうち38社が経常赤字となっている。

#### (5) 経営評価の結果

- 令和3年度の経営評価の結果より、「改善の余地あり」となっており、令和4年度の結果も同様である。
- 旅客事業については、赤字から黒字への転換に向けた取組が求められている。
- なお、貨物事業については、収益拡大に向けた取組が求められている。

#### (参考11) 過去の出資法人等経営評価における提言・意見等

項目	主な提言・意見等の内容
出資法人等 経営評価 (R4)	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 平成30年度以降4期連続で赤字を計上している。経営状況が厳しさを増していることから、黒字への転換に向けてより一層取り組む必要がある。</li><li>○ 旅客事業については、沿線人口の減少や新型コロナウイルス感染症等による影響が今後も続くと考えられることから、貸切列車の運行等のPRや茨城デスティネーションキャンペーン等への参画とともに、引き続き「大洗鹿島線を育てる沿線市町会議」との連携等により、沿線住民等の利用促進に努め、収支改善を進められたい。</li><li>○ 貨物事業については、トラック輸送の運賃上昇やカーボンニュートラルへの対応など、荷主企業におけるモーダルシフトが見込まれることから、収益拡大に向けて、新規荷主の獲得のための営業強化や大型コンテナの取扱拡大・JR等との連携強化など、サービスの向上に努められたい。</li><li>○ 引き続き安全な運行を堅持するため、運転士の人材育成並びに鉄道施設の維持管理及び更新を計画的に実施し、地域の基幹的な公共交通機関として貢献されたい。</li></ul>

## 2 課題

### (旅客事業)

- 大洗鹿島線については、開業当初から、採算性の低い路線を引き受けたことに加え、沿線の人口減少が進行していることから、利用者が逡減傾向にあるとともに、先行き不透明な世界経済の影響などにより諸物価が高騰しており、営業費用の増加が見込まれ、今後も厳しい経営環境が続く見通しである。
- 開業から間もなく40年が経過することから、高架橋など鉄道施設の老朽化が進んでおり、施設の維持・修繕に多額の費用が見込まれる。
- 車両については、計画的に新型車両の導入を進めてきたものの、部材高騰により製造会社から急激な値上げを要請されたことから、当初予定よりも更新費用の増加が見込まれる。安全輸送を継続していくため、施設の老朽化に対する修繕や車両の更新を実施していく必要がある。

### (貨物事業)

- 貨物事業については、ドライバー不足によるトラック輸送の運賃上昇やカーボンニュートラルへの対応など、荷主企業におけるモーダルシフトが一層進むと見込まれることから、収益拡大に向けた取組が必要である。

### 3 対応方針

#### (旅客事業)

- 「大洗鹿島線を育てる沿線市町会議」などとの連携による利用促進策を展開するとともに、鹿島アントラーズのホームゲーム開催日において、鹿島アントラーズやコンビニート企業と連携し、神栖駅からパーク&ライドによるサッカー応援団体専用臨時列車の運行を行うなど、利用者の確保を図り、収支改善を進めていく。
- 車両や鉄道施設の維持・修繕については、国、県、沿線市町の補助金などを活用し、鉄道軌道安全輸送設備等整備事業計画などにに基づき進めていく。
- 更新予定であった車両の修繕を行い、継続して使用するとともに、新型車両の導入については、第三セクター鉄道等協議会及びその会員と連携して、車両の共同購入を前提に複数の車両製造会社に働きかけ、更新費用の低減を図っていく。
- 大洗鹿島線については、安全・安心な運行に配慮しながら、鉄道サービスの提供を通じて、地域の発展に貢献し、地域住民の豊かな生活を支える公共交通機関として、その使命を今後も果たしていく。

#### (貨物事業)

- 貨物事業については、鉄道未利用企業への営業活動の強化や大型リフター導入による貨物取扱能力の増強により、輸送量の増加を図っていく。

(参考 12) 大洗鹿島線を育てる沿線市町会議の概要

設 立	昭和 61 年
会 長	大洗町長（事務局：大洗町）
構 成 (分担金:千円)	県 (225)、水戸市(260)、大洗町(229)、銚田市(368)、鹿嶋市(193)、潮来市(75) 計：1,350
主な事業	<ul style="list-style-type: none"><li>・ J R 東日本千葉支社が運行するサイクルトレイン「B. B. BASE」と連携し、鹿島神宮駅～大洗駅間で大洗鹿島線サイクルトレインの運行費用を補助</li><li>・ 大洗鹿島線利用促進及びホームタウン意識の醸成を図るため、水戸ホーリーホック及び鹿島アントラーズ特別仕様（選手写真、試合日程などを掲載）の時刻表を作成</li><li>・ 大洗鹿島線を利用する機会の創出及びマイレール意識の醸成を図るため、沿線地域に在住の中学生を対象に希望区間の往復乗車券を配布 など</li></ul>